

小鍋谷工事用道路その2 工事における安全対策について

- ①工事用道路使用にあたっての安全対策
 - ・各種看板及び林道の整備、補修
- ②伐採作業に対する安全対策
 - ・保護具の着用（伐採用膝あて・携帯防虫香・防虫ネット）

（有）和仁建設 小鍋谷工事用道路その2 工事
 （工期 平成25年5月23日～平成26年1月31日）

現場代理人

○

タニザキ マサヒロ
 谷崎 雅博
 タキモト ソウイチ
 瀧本 宗一

主任技術者

1) はじめに

本工事は、蒲田川上流域右俣谷の支流小鍋谷上流において、下流域で生活する皆様や奥飛騨温泉郷・新穂高ロープウェイ等の観光施設を訪れる観光客や自然環境を土砂災害から守るため計画されている砂防堰堤を施工するため、工事用道路を新設する工事です。

施工箇所は、中部山岳国立公園内に位置し、頭上に西穂高岳をまた、正面には笠ヶ岳を間近に見ることが出来る、景観の良い自然環境の中での工事のため、希少植物の調査及び移植等を行い、周辺の自然環境に配慮して施工しました。



上空から見た小鍋谷上流域

2) 工事概要

道 路 土 工	掘 削 工	6, 6 6 0 m ³
	路体盛土工	1 1 0 m ³
	路床盛土工	3 4 0 m ³
	法面整形工	1 8 8 0 m ²
	工事用道路工	1 式
法 面 工	残土処理工	1 式
	植 生 工	植生シート 3 5 0 m ²
	法面吹付工	モルタル吹付 (t=10cm) 2, 3 2 4 m ²
		モルタル吹付 (t=5cm) 9 4 m ²
		繊維モルタル吹付 (t=10cm) 1 2 3 m ²
排水構造物工		1 式
擁 壁 工	重力式擁壁工	1 式
準 備 工	支障木伐採	1 式
	植物移植 (希少植物)	1 式

3) 工事用道路使用にあたっての安全対策について

当工事を施工するには、国道471号線から県道槍ヶ岳線を通り、洞門手前を右折し市道鍋平線を通り林道（小鍋谷資材運搬道路）を利用するが、観光シーズンには多くの車両や観光客、登山客等で大変混雑する。そのため工事車両との交通事故などトラブルの発生が心配されたので、その安全対策として、各種看板により工事車両の通行及び工事に対する協力をお願いすると共に、林道の整備・補修を行い交通事故等の災害防止に努める。

- ・市道 鍋平線（現場より6 km・4 km手前の道路沿い）に『工事のお知らせ看板』を設置し、工事の進捗状況、大型車両の通行の有無を掲示する。

工事のお知らせ看板



現場より6 km手前



現場より4 km手前

渋滞状況



ロープウェイ駐車場手前

路上駐車状況



市道 鍋平線



- ・ロープウェイ第2駐車場から上の林道 約4 km区間は、登山道として使用されるほか、ロープウェイを訪れた観光客が散策道として通行するなど、多くの歩行者が通るため、間伐材を使用した外国語併記（英語・韓国語・中国語）の案内看板や工事車両が通行する事を明示した、お願い看板を設置して注意を促すと共に協力をお願いする。また、工事関係者には、安全に運行するよう指導を徹底すると共に、道路沿いに設置した看板により注意を促す。

* 外国語併記の案内看板



登山口まで 0.7km



登山口まで 3.0km

* 工事に対する協力お願い看板



ロープウェイ
駐車場横付近



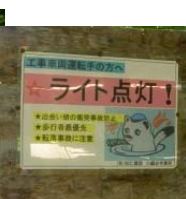
林道沿いの看板



* 林道沿いに設置した各種看板



ライト点灯



歩行者優先



20 km 走行

- ・工事用道路として使用する林道は、未舗装区間が多く降雨により洗掘されたり、法面の崩落や落石の危険があるため毎日通勤時に点検し、不良箇所の整備、補修を行う。また、道路上に張り出した樹木の枝葉や、つるにより大型車両の通行に支障が出ないように、長尺形のチェーンソーを使用して除去し安全に通行出来るよう努めた。



敷鉄板による路肩及び横断側溝の保護



不良箇所の補修



道路上に張り出した枝葉、つる等の除去（長尺形チェーンソー）

4) 伐採作業に対する安全対策について

支障となる樹木の伐採面積が広く、転石が重なった足元の悪い場所や急斜面で、チェーンソーを使用する作業となるため、伐採作業時にチェーンソーが当たっても切れない、膝あてを着用して事故防止に努めた。

また、樹木の多い山林での作業なので、ヤブ蚊等の虫が多く作業者の顔の周りに群がるため、携帯用の森林用防虫香及び、頭から被る防虫ネットを使用して安全作業を心がけた。



伐採作業状況



伐採用膝あて



携帯森林用防虫香



防虫ネット



5) 終わりに

工事用道路使用にあたっての安全対策及び伐採作業に対する安全対策について報告しましたが、まだまだ工夫しなければならない点がたくさんあると思います。

今後も、危険に対する安全意識の向上に努め、小さな危険を見逃さない、よりよい作業環境を築き、常に安全対策に目を向け、『無事故・無災害』をめざし努力したいと思います。最後に本工事に対し、ご指導して頂きました監督職員の皆様をはじめ、ご協力頂きました工事関係者の皆様に深く感謝いたします。

